

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 精神・発達医療学教育研究教育分野 氏名 鈴木 裕幸
指導教授氏名	中村 和彦
論文審査担当者	主 査 井原 一成 副 査 三上 達也 副 査 玉田 嘉紀
<p>(論文題目) The association of social capital with depression and quality of life in school-aged children (小中学生におけるソーシャルキャピタルと抑うつ、および生活の質の関連)</p>	
<p>(論文審査の要旨) ソーシャルキャピタルと子どものメンタルヘルス (抑うつや Quality of Life, QoL) の関係性についての研究は多い。しかし、ソーシャルキャピタルのうちの学校ソーシャルキャピタルに注目した研究は少なく、かつ、その測定精度が低いという問題点が先行研究にはあった。</p> <p>本研究は、アンケート調査により、学校ソーシャルキャピタルを含む認知的ソーシャルキャピタルと児童思春期の抑うつと QoL との関係を検討したものである。ソーシャルキャピタルの尺度は、「学校」、「安全感」、「地域」の3つの領域を評価するものであり、先行研究で用いられた尺度とは異なり、「学校」ソーシャルキャピタルを高い精度で測定することが出来る。7700 人に及ぶ小・中学生 (9 歳から 15 歳) を研究対象に、統計解析にマルチレベル混合効果モデル分析を用いることで、ソーシャルキャピタルのメンタルヘルスに対する個人レベルと学校レベルの効果をそれぞれ独立に検証した。</p> <p>個人レベルで、3つのソーシャルキャピタルは全て、抑うつおよび QoL と関連し、ソーシャルキャピタルが高いと抑うつが低く、QoL が高くなる関係性を有していた。特に「学校」ソーシャルキャピタルは、抑うつと QoL とに強い関係性を有していたが、抑うつとの関係性は小学生よりも中学生で、QoL との関係性では中学生よりも小学生でより強かった。また、「近隣」ソーシャルキャピタルと QoL との関係も小学生の方でより強かった。</p> <p>学校レベルでは、「学校」および「安全感」のソーシャルキャピタルが抑うつと関連し、「安全感」は QoL と関連することが明らかになった。学校レベルでの「安全感」ソーシャルキャピタルと抑うつとの関係性は、中学生よりも小学生でより強かった。</p> <p>本研究は、子どものメンタルヘルスに対するソーシャルキャピタルの重要性、特に学校ソーシャルキャピタルの重要性を示した。さらに、ソーシャルキャピタルとメンタルヘルスとの関係が小中の学校段階で異なることを明らかにし、学校段階で異なるメンタルヘルス対策が必要であることを示唆した点とあわせて大きな成果であり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	PLoS One 17 (1) e0262103 - e0262103 2022.1